

幼稚園目標	◎心の豊かな子供(今年度の重点) ○健康でたくましい子供 ○自分で考え、行動できる子供
目指す幼稚園像	・笑顔で登園し、満ち足りた気持ちで家路につく園（子供・教職員・保護者・地域）
目指す園児像	・自然や人との関わりを通して、人の気持ちが分かる思いやりのある子供 ・体を動かす心地よさや楽しさを感じ、すすんで遊ぼうとする子供 ・素直に自分をあらわし、思いや考えを大切にし、やり遂げようとする子供
目指す教師像	・一人一人の幼児理解を深め、一人一人の育ちを中心に据えて考える教師 ・誠実かつ謙虚に保育の質の向上にたゆまぬ努力をする教師 ・広い視野をもち、家庭・地域と連携して園運営に参画する教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
保育活動等	園は、幼児の主体的な活動を促す教育の実施に努めているか。	A	・自分で選び、したいことができる環境や時間があり、失敗しても大丈夫という雰囲気や今後を大事にする。 ・興味関心に合わせた行事を計画的に設定する。	A	A
	園は、特別な支援を必要とする幼児に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	B	・日常の保育を通して実態把握に努めるとともに、巡回相談などを活用し、よりよい支援を探る。介助補助員や支援員との情報共有の方法を工夫し、全職員が共通の方向目標をもち、支援にあたる。	B	A
	園は、幼児の将来の自立に向けた保育活動・相談活動に取り組んでいるか。	B	・遊びや生活の中で、自分の力を発揮する姿を認め自信をもたせ、また、友達同士、個々の思いや考えを認め合える関係づくりに努める。自立に向けての方向性の共通理解を図る。	B	A
	園は、教員の指導力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	B	・墨田区教育委員会研究協力園での研究成果を、園内研究に取り入れ、実践を重ねている。講師を招聘しての研究保育を2回行い指導力向上に努めた。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	・全体的に十分取り組んでいる。4歳児でももう少し集団生活や自立を意識した活動があってもよいのではないかと。季節に合わせた行事や遊びの取り組み等、よく工夫されている。 ・教員の保育力、指導力の向上に努めている。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	園は、幼児の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	A	・全職員が情報を共有し、幼児理解の上で、寄り添いながら指導に当たる。家庭とも連携をとり、早期発見、早期対応に努め、保護者と共に幼児の心の安定を図る。	A	A
	園は、幼児が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係をつくるための心の教育を行っているか。	B	・個々の状況に応じて段階を踏んだ声掛けや指導を行ってきたが、基本的な生活習慣の獲得にはまだ個々の差が見られる。家庭と連携しながら、幼児自身が必要感をもてるよう繰り返し指導していく。 ・友達との関わり方も自己主張だけでなく、折り合いをつける経験も重ねていく。他学年との関わりを自然な形で進めながら、多様な考えや価値観に触れられるようにする。	B	A
	園は、幼児の安全を確保するための取組を行っているか。	A	・月に一回の併設小学校との合同避難訓練の積み重ねで避難行動などは身に付いてきた。安全指導、安全点検も実施している。	A	A
	園は、幼児や保護者からの意見や要望を把握し、保育活動の点検や改善に役立っているか。	A	・行事や公開保育後には、その都度アンケートを取り、評価反省を行っている。幼稚園評価アンケートの結果も受け止め、次年度に生かす。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	・個々に違いがある中で、幼児一人一人を理解し、個に合わせた取り組みができています。 ・保護者の意見を聞き入れやすい環境が整っている。 ・家庭の協力が欠かせない中、積極的に取り組んでいると思う。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
園の管理運営	園は、管理職の経営方針に基づいた、組織的な教育活動・園運営を行っているか。	B	・園の経営方針を全職員が理解し、担任を中心とした保育実践を行っている。少人数となり、これまで以上に保育者のあり方を理解し、自立や幼児同士の関わりを促す援助を心掛ける。 ・少長が関わって遊ぶ場面が増えたので、指導方針や援助など全職員が共通理解し、援助する。	B	A
	園は、幼児の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	・個々や学級の実態把握を日々の保育の振り返りや、週案会議、園内研究などで行い、具体的な手立てや目標の設定、指導の改善を図る。	B	A
	園には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	A	・園内の自然環境や教育環境を育ちに必要環境という視点で、整備を行ってきた。今ある環境を最大限に活かした保育実践を重ねていく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等		・経営方針を全職員が理解し、幼児に寄り添った保育、指導ができることは素晴らしい。 ・少人数の特性が生かされている。 ・幼児一人一人を理解し、伸び伸びと保育活動ができる環境、運営ができています。		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	園は、教育方針や日常の保育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	B	・担任による月いちスライドショーや、ドキュメンテーション、ホームページを通して、写真や動画とともに、教育のねらいや幼児の経験を分かりやすく発信し、保護者からも評価された。幼児の育ちや変容を伝える工夫を行い、発信力を高める。 ・登降園時を活用し、保護者と情報共有し、共に育てていく。	A	A
	園は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	B	・昨年度に比べると行事や活動が実施できるようになった。幼児の実態や経験、人数に応じて無理なく進められるよう、従来の方法を見直していく。今後は、高齢者や保育園、小学校、中学校との交流活動を更に活発に行えるよう工夫する。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等		・教育内容等の情報発信は担任の負担になるだろうが、保護者の安心と理解につながる。 ・スライドショーや面談資料を通して保育活動の様子を十分知ることができ、満足している。 ・地域の方との交流をもっと増やせるとよい。 ・手伝える連携行事があれば協力したい。		

2 令和5年度幼稚園評価のまとめ

<ul style="list-style-type: none"> ・5月より様々な行事や交流活動の実施が可能となり、アフターコロナの園生活として、幼児の実態や発達に応じた教育活動の充実を図ってきた。保護者および学校関係者の方から肯定的な高い評価をいただき、園の教育内容への理解が得られていることを感じた。保護者対象の「月いちスライドショー」の実施、ドキュメンテーション作成、ホームページの更新など保育の可視化に取り組み、園の教育内容や幼児の育ちを積極的に発信した成果と考える。今後は、地域への発信の工夫や活発な交流など、地域との関わりを密にし、更に理解・協力を得られるよう努める。 ・園児数の減少により、幼児の育ちの変化や、保護者活動の負担など新たな課題も見えてきた。従来の方法を見直し、意義を十分理解した上で、実態やニーズに合わせた改善や工夫を図っていききたい。 ・幼稚園評価を通して、改めて保護者や学校関係者、地域の方々に温かく見守られ、支えられていることを実感することができた。今後も、感謝の気持ちを忘れず、園評価の改善策や様々な意見を活かし、最善の教育実践を研究しながら、「笑顔で登園し、満ち足りた気持ちで家路につく」園づくりに努めていく。

以上の通り報告いたします。